

S2-B1

Fujitsu Experience Day 2026

FUJITSU

すべての方に医療を届ける デジタルヘルスケアの取り組み

2026年7月16日

© 2026 Fujitsu Limited

木戸 博 先生

徳島大学 先端酵素医学研究所 特任教授

経歴

1977年：徳島大学医学部付属病院医員
1979年：米国ロッシュ分子生物学研究所 研究員
1981年：徳島大学助手
1989年：徳島大学准教授
1993年：徳島大学教授
2007 - 2011年：徳島大学疾患酵素学研究センター長
2010 - 2011年：徳島大学役員参与（研究担当）
2012年：生体防御・感染症病態代謝研究分野、
寄附講座部門兼務
2013年：定年退職、徳島大学寄附講座、
生体防御病態代謝研究分野
特任教授（名誉教授）、現在に至る

所属学会

日本生化学会（永年会員）、International
Proteolysis Society (President 2009-2011, Vice
President 2001-2005)、日本アレルギー学会、日本小児
アレルギー学会、日本ワクチン学会、日本感染症学会、
日本病態プロテアーゼ学会（理事、評議員）、
日本肺サーファクタント・界面医学界（理事、評議員）

専門分野

生化学、分子生物学、感染症学、アレルギー学



小島 尚久 様

DTアクシス株式会社 代表取締役

経歴

19XX年より医療・ヘルスケア業界に従事。医療DXやデジタルヘルス分野で事業開発に携わり、2020年にDTアクシス株式会社を設立。代表取締役として、デジタル治療・AIを活用した医療サービスの社会実装を推進。

事業内容

デジタル治療（DTx）・SaMD（プログラム医療機器）の開発・事業化を推進
製薬企業・医療機関・大学と連携し、デジタルヘルス領域の新たな価値創出に取り組む
富士通を含む企業との協業を通じ、AI・データ活用による医療DXを推進

企業概要

- 2020年設立
- デジタル治療（DTx）・SaMDを中心としたヘルステック企業
- うつ病治療補助アプリなどデジタル医療ソリューションの社会実装を推進

DT ∞ Axis



リフトンD

うつ病治療補助プログラム



本部長

大下 義弘

富士通株式会社
エンタープライズ事業 CPG商社卸事業本部
本部長 大下 義弘



ライフサイエンス事業部長

長島 久美子

富士通株式会社
エンタープライズ事業 CPG商社卸事業本部
ライフサイエンス事業部長 長島 久美子

一人ひとりに、医療は届けられていますか？

高齢化による 医療費の増大



医療費の適正化

継続的な医療サービスの提供

医療体制・人材不足



医療従事者の負担軽減

医療業務の効率化の推進

地域医療格差



地域間の医療格差解消

医療サービスへのアクセス向上

医療アクセス格差



パーソナライズドな治療機会

代替的な治療手段の確立

富士通が目指す社会

誰にでも必要な医療が届く社会

テクノロジーの力で医療の可能性を広げ、
誰もが必要な医療にたどり着ける社会へ。
私たちはテクノロジーと共創の力で、その実現に挑みます。



誰にでも必要な医療が届く社会

いつまでも自分らしく、健康で安心して暮らせる未来へ



Digital Healthcare

新たな患者体験の提供



パーソナルヘルスレコード
(PHR)



遠隔医療



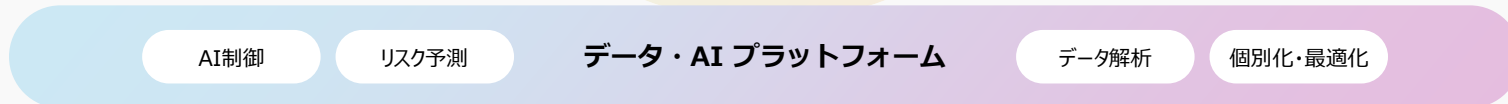
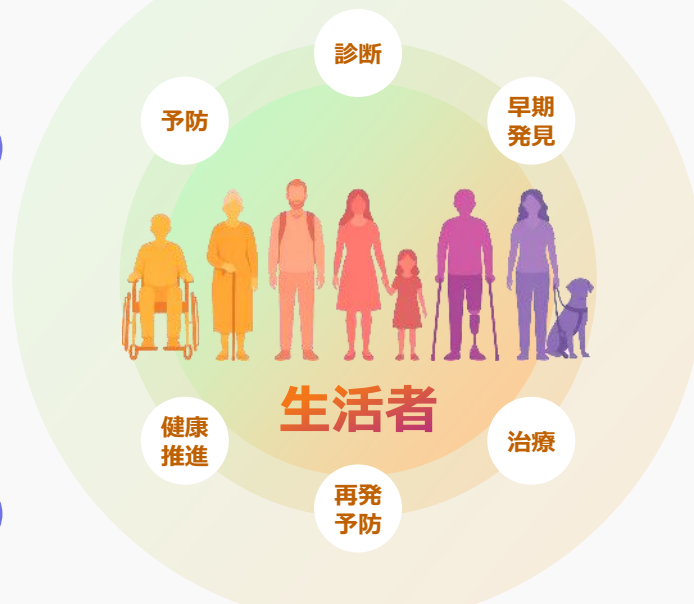
プログラム医療機器
(SaMD)



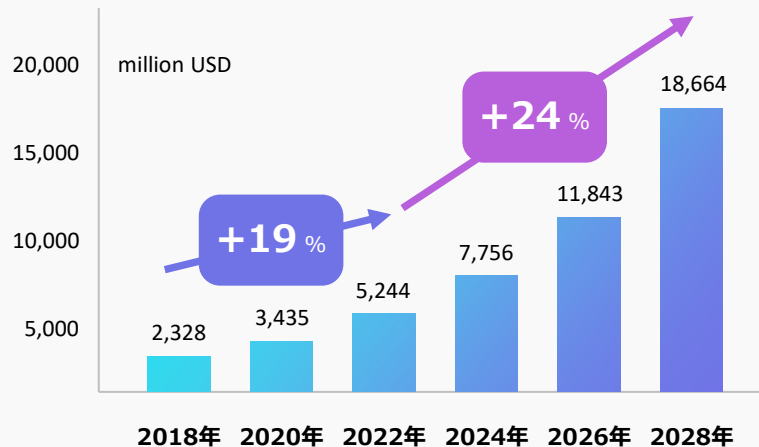
デジタル
セラピューティクス

アレルギー
ニコチン依存症
高血圧症

不眠障害
うつ病
ADHD

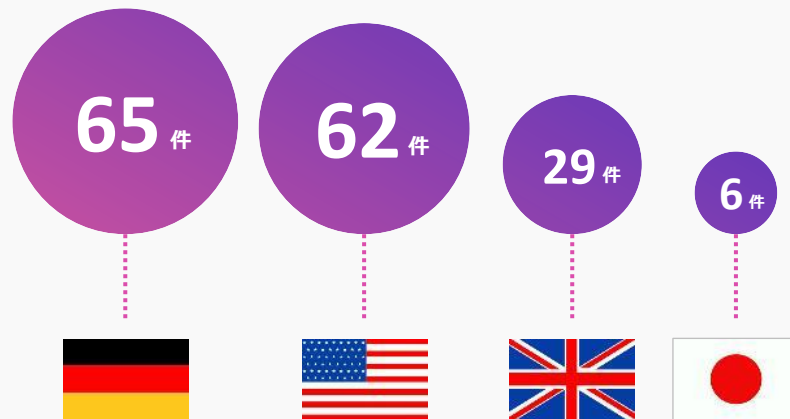


治療アプリ市場は、規模・承認数ともに急速に拡大



治療アプリの市場成長率

出典：Digital Therapeutics MARKET ESTIMATES & TREND ANALYSIS FROM 2016 TO 2018, Grand View Research



治療アプリの承認数

出典：IQVIA デジタルヘルストレンド2024

誰にでも必要な医療が届く社会

いつまでも自分らしく、健康で安心して暮らせる未来へ



実践者の声から学ぶ

「国民病のアレルギー課題を解決して効果的治療支援を導くプログラム医療機器の開発」

徳島大学先端酵素学研究所 特任教授 木戸 博

現状の課題、国民は何に困っているか

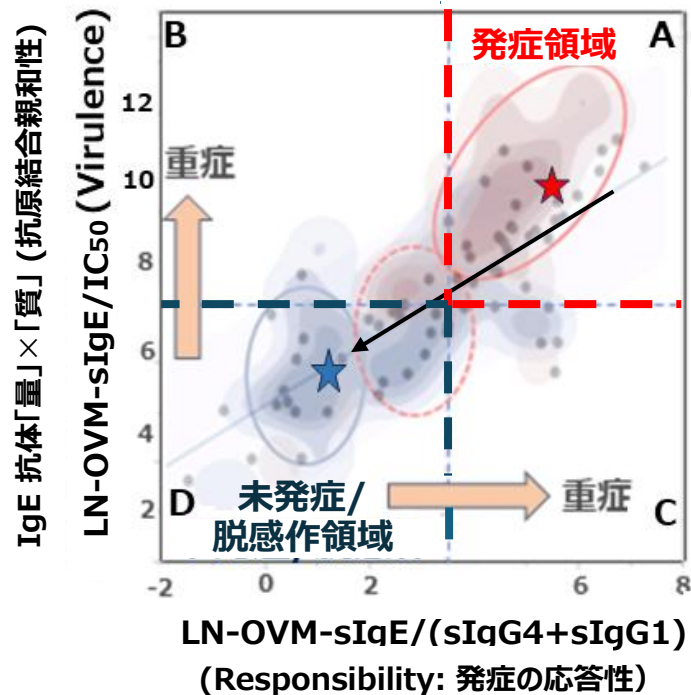
- ・ **アレルギーは国民病**で、国民の二人に一人は何らかのアレルギーに罹患
- ✓ 現行のアレルギー血液検査は**アレルゲン感作診断**で、**アレルギー発症診断検査法がない**
 - ・ 「感作」と治療の必要な「発症」は異なり、**感作されても発症していない治療不用例が多いが現状では判別できていない**
 - ・ アレルギー学界では、判別のための**アレルギー発症診断**として「**経口食物負荷試験**」を推奨するが、実際に食べることで予期しない**生命リスクのあるアナフィラキシーを伴うことがある**
- ✓ 安全摂取可能量（少量、中等量、日常摂取量）決定が患者の日常管理に重要だが**予測法がない**

プログラム医療機器開発（上記の課題全てを解決する）

- ✓ 食物アレルギー、スギ花粉症の、血液検査**発症予測支援、免疫療法の治療効果判定の支援**
- ✓ **安全摂取可能量**（少量、中等量、日常摂取量）の予測
- ✓ **成長型**の機械学習システム（各種アレルギー疾患から、各種感染症の感染防御能診断に拡充）

アレルギー発症診断の個別化、可視化データ

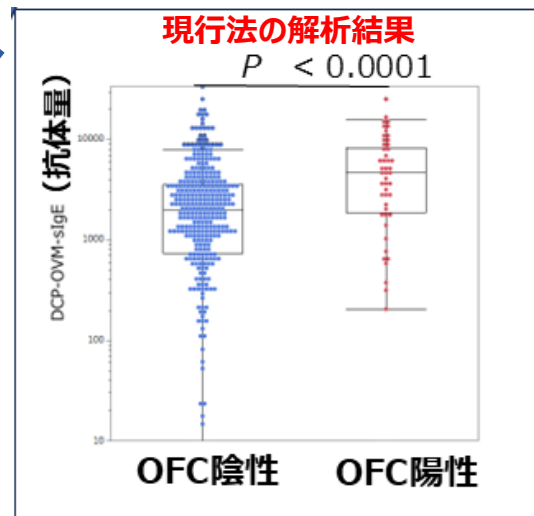
(鶏卵免疫療法例)



食物負荷試験陽性者
発症者

食物負荷試験陰性者
未発症/脱感作者

抗体価測定ではOFC陽性/陰性判定が不可能



医師と患者が、現在の位置を確認して、共通認識の上で、Dの脱感作領域に向かう治療を共に進めることが可能になる

解析結果報告書



富士通 太郎 様

患者ID : 123456789

性別 : 男性

年齢 : 11歳

依頼元医療機関

アレルゲンID

検体受領日

結果報告書出力日

: 徳島病院

: 0123456789

: 2024年04月20日

: 2024年04月23日

鶏卵アレルギー発症診断プログラム医療機器開発

TOKU-001

(富士通株式会社)

抗原名称:

オボムコイド

②解析結果 (OFC後)

総合所見

負荷量を減じて、陰性になるまでOFCを実施し、持続的経口摂取安全負荷量を検索してください。

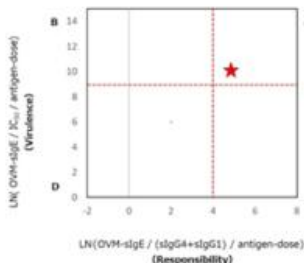
解析結果詳細

項目	結果
DCP_OVM-slgE	1234.56
DCP_OVM-slgG1	1234.56
DCP_OVM-slgG4	1234.56
DCP_OVM-slgE_IC50 (nM)	1234.56
DCP_OVM-slgE_1/IC50 (nM)	0.78
DCP_OVM-(slgE/slgE_IC50)	0.78
DCP_OVM-(slgE/(slgG1+slgG4))	0.78
DCP Ln{OVM-(slgE/slgE_IC50)}	0.78
DCP Ln{OVM-(slgE/(slgG1+slgG4))}	0.78
DCP Ln{OVM-(slgE/slgE_IC50)/antigen dose*}	0.78
DCP Ln{OVM-(slgE/(slgG1+slgG4)/antigen dose*)}	0.78

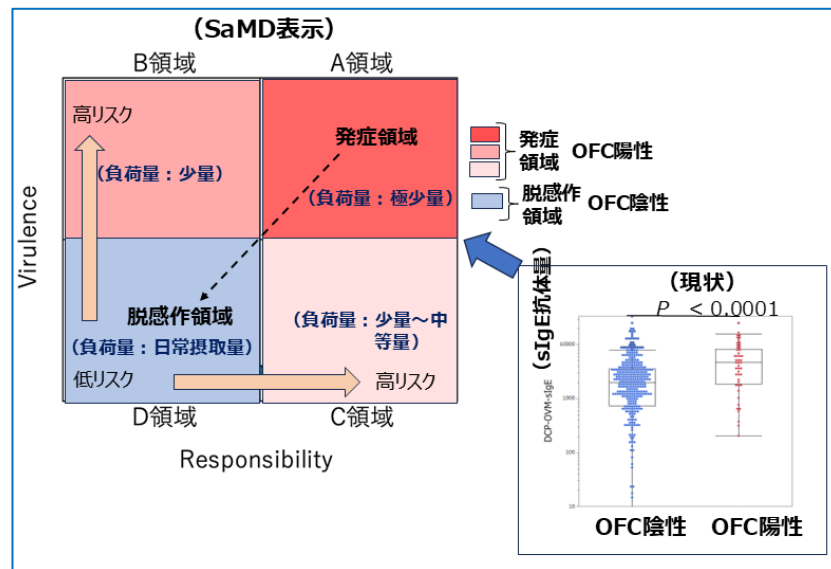
*cumulative egg white dose quantity (積算負荷量g)

積算量(積算負荷量)	加熱鶏卵の場合
少量	加熱全卵1/32~1/25個相当 加熱卵白1~1.5g
中等量	加熱全卵1/8~1/2個相当 加熱卵白4~18g
日常摂取量	加熱全卵2/3~1個相当 加熱卵白25~35g

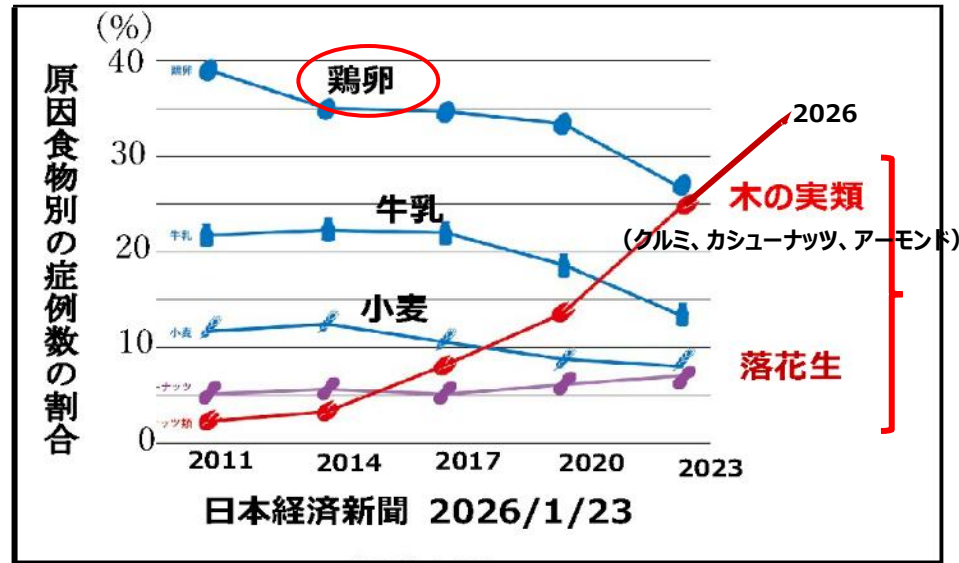
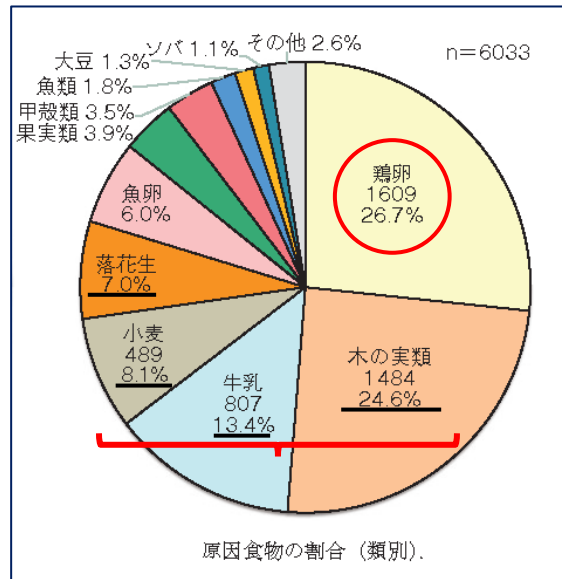
個別のアレルギー発症診断予測



領域	加熱鶏卵の場合
A (発症可能性領域)	OFC判定の陽性の判定が高い確率で出現する可能性がある。
B (発症可能性の可能性のある領域)	AからDへの移行期で、A領域に近い軽症者。
C (発症可能性の可能性のある領域)	AからDへの移行期で、D領域に近い軽症者。
D (発症可能性領域)	OFC判定の陽性の判定が高い確率で出現する可能性がある。



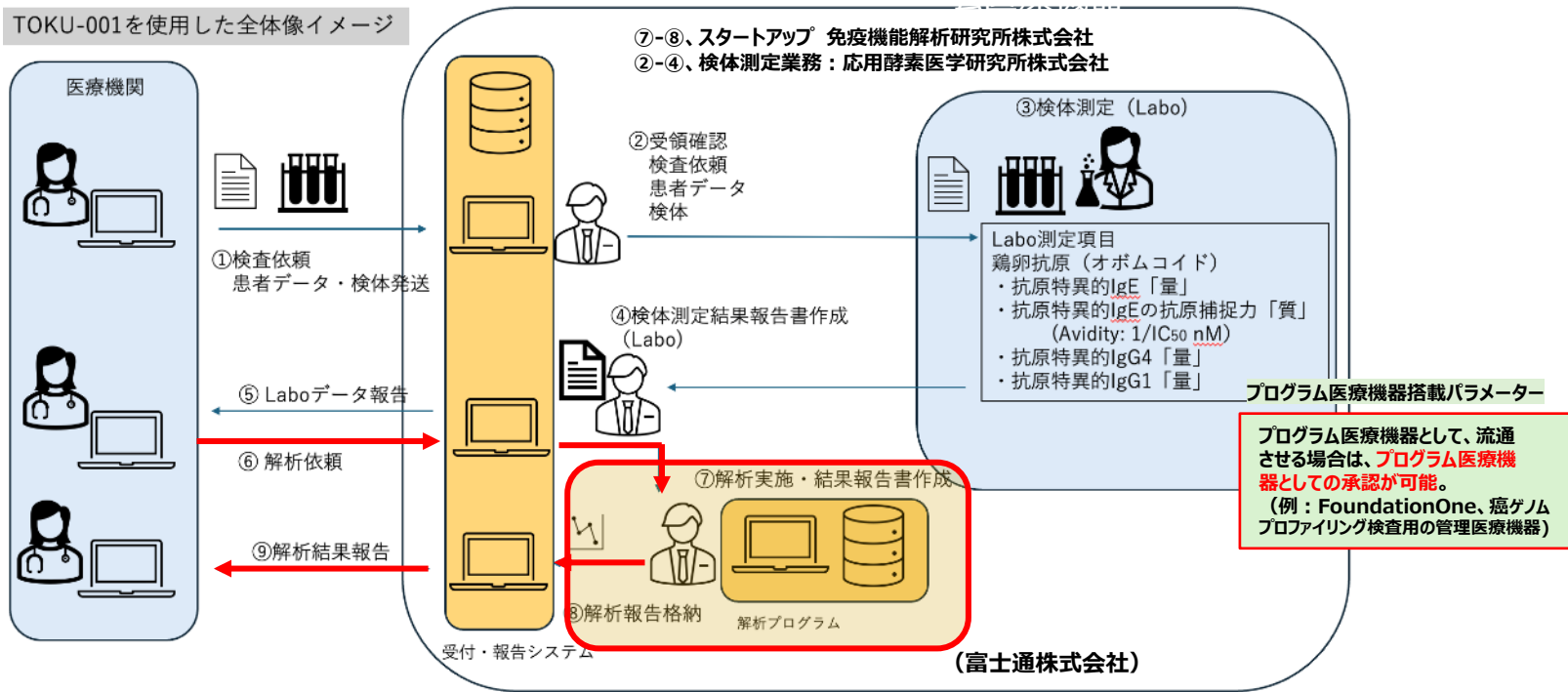
鶏卵アレルギー以外に、木の実類、牛乳、小麦、落花生等のアレルギー発症診断支援プログラム医療機器の開発が強く求められている。
国民に本プログラムを届けるため、治験準備を開始し費用の支援を目指している。



臨床データ収集予定施設： 国立病院機構三重病院、昭和医科大学医学部小児科、徳島大学医学部小児科、高槻病院小児科

プログラム医療機器を使用したアレルギー診断と免疫療法の支援体制

TOKU-001を使用した全体像イメージ



本プログラム医療機器により社会的ニーズに応える

医療の未来を実現する共創のかたち

富士通が製造委託を受け設計・開発を支援した プログラム医療機器の国内製造販売承認取得について

PRESS RELEASE 2025年9月25日

富士通が製造受託業者としてシステムの設計・開発段階から支援を行ってきたプログラム医療機器（SaMD）が、このほど、厚生労働省より、クラスIIのプログラム医療機器として製造販売承認されました。

富士通とD Tアクシス、デジタルヘルスの発展を 目指し、プログラム医療機器（SaMD）開発支援 における協業を開始

PRESS RELEASE 2026年3月9日

富士通とD Tアクシスは、デジタルヘルスの発展に寄与するため、研究開発機関や医療機器の開発提供を行う企業、製薬企業向けにプログラム医療機器（SaMD）の承認申請、販売を見据えた製品開発を一貫して支援するための覚書を締結しました。



富士通が目指す社会

誰にでも必要な医療が届く社会

テクノロジーの力で医療の可能性を広げ、
誰もが必要な医療にたどり着ける社会へ。
私たちはテクノロジーと共創の力で、その実現に挑みます。



お問い合わせ

本資料に関するお問い合わせは
以下までお気軽にご連絡ください。



contact-events-fed@cs.jp.fujitsu.com